

C-31 肩部を中心とした形態の被服構成学的考察

ノートルダム女大文 杵田庸

目的 いかり肩、なで肩又は、前肩、後肩という肩部の形態は、各々異なつた見地から分類した特徴を言うが、肩部はこの他、骨格や筋肉、脂肪の付着状態等によつて様々な形態を呈し、非常に個性の強い部位である。

今回は、いかり肩、なで肩と、前肩、後肩の関係を中心に検討した。

方法 被検者は18才から22才までの女子140名で、肩部を中心とした前面、左右側面、上面の単写真および直接計測値（身長、体重）を用いて検討した。写真計測は、前面写真において肩傾斜角度、側面写真において肩峰点の位置、上面写真では頭頂点と肩峰点を結ぶ直線と頭頂点を通る前頭線とのなす角度（ $\angle V$ ）および前頭線と肩胛肩のカーブに引いた接線とのなす角度（ $\angle S$ ）等である。

結果 肩傾斜角度については、全体の約7割が標準肩に属し、いかり肩、なで肩の割合はほぼ同様で、一般に右肩下りの傾向がみられた。いかり肩、標準肩、なで肩の分類と $\angle V$ による前肩、普通肩、後肩の分類との対応関係は無に近く、従つて肩部形態を観察する時はこの二要因は、二次元的に考えなければならぬ。 $\angle V$ と $\angle S$ との間には、適度な相関がみられ、 $\angle V$ による前肩、普通肩、後肩の分類と $\angle S$ による急角度、標準角度、緩角度の分類との対応関係もみられた。